

達成目標の進捗状況

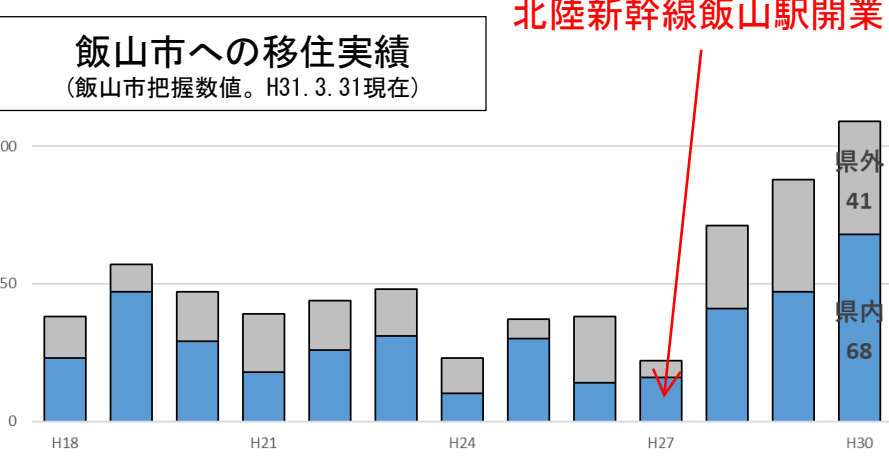
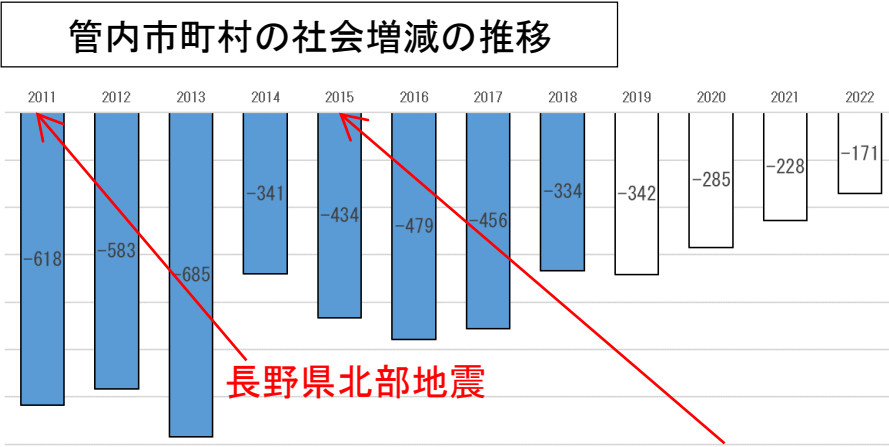
社会増減 毎月人口異動調査（企画振興部調）	年	基準値(2017)	目標値(2022)	最新値（2018）
	実績値	△456 人	△171 人	△334人
移住者数 （企画振興部調）	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値（2018）
	実績値	142 人	198 人	136人
創業・立地件数 （産業労働部調）	年	基準値(2012～2016累計)	目標値(2018～2022累計)	最新値(2018年までの累計)
	実績値	16 件	増加	1 件
除雪作業中の事故件数 （危機管理部調）	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値（2018）
	実績値	23 件	減少	11件

（社会増減）

- 北信地域全体の社会増減は△334人と縮小傾向。
- 転入、転出ともに県内 6 割、県外 4 割で、県外とは転入超過(+115人①)、県内他地域とは転出超過(△323人②)。
(△334人 = ①+②+「その他増減数(職権による登録・消除等)」△126人)
- 20～34歳が転出入の約半数を占め、転出超過傾向。
特別豪雪地帯は転出超過がより顕著。
- 外国人住民数は1,421人で前年より140人増加。

（移住者数）

- 移住者数は136人と基準値を下回った。一方、飯山市への移住実績(109人)は過去最高で、新幹線開業と移住施策の相乗効果がうかがえる。
- 移住者の年代は20～40歳代が4分の3程度を占める。移住理由は、就職・転職が約半数、地方暮らしと就農が4分の1となっている。
- 飯山市では、移住者の6割が県内からの転入、Uターンが5割。
なお、北信地域全体もUターン比率が県平均を上回っている。



(創業・立地件数)

- 創業・立地件数は1件と低調。
- 創業応援減税に関わる創業認定は0件だが、創業資金のあっせん件数、商工会議所の相談件数は横ばいで推移し、一定の創業の動きがある。
- 工場立地(1000㎡以上の用地取得)は1件(中野市、製造業)と低調。

(除雪作業中の事故件数)

- 除雪作業中の事故件数は11件(うち雪下ろし8件、死亡事故0件)と減少。
- 平成30年度は降雪量が平年より少なかったため、事故件数が減少したと推察される。
- 過去5年間、県全体では死亡者が21人。うち雪下ろし11人、高齢者が7割以上となっている。

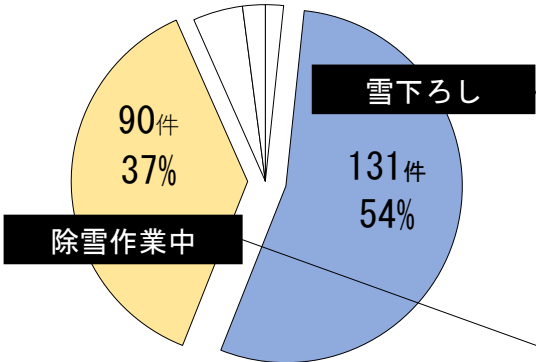
【重点政策の評価】

- ・ 社会減は縮小傾向であるが、一部地域を除き移住者数が伸び悩み、創業・立地件数が低調であるなど、移住・定住の拡大や就労の場の拡大に向けた取組の成果が十分に表れていない。
- ・ 今年度、住民の暮らしを支える総合的な雪対策が拡充されたことから、除雪作業中の事故防止に向け、制度の利用拡大を図っていくことが必要。

【今後の取組の方向性】

- 若者定着・人口定着のため、移住・定住の促進、創業・就労支援、雪対策等による生活基盤の整備を重点的に実施していく。
- 多様な働き方や暮らしの提案など、北信地域の特性を活かした取組を行っていくことが重要。
- 既存産業の振興に加え、県立大CSIの伴走型起業支援等により起業意欲を高め、小さな起業(成功事例)を増やすことが重要。
- 克雪住宅(融雪型、落雪型)の普及を促進するとともに、雪下ろし作業の安全対策の普及を進めることが急務。

県内の雪害事故件数 (H26-H30、全241件)



県内の雪害事故死亡者数 (H26-H30)

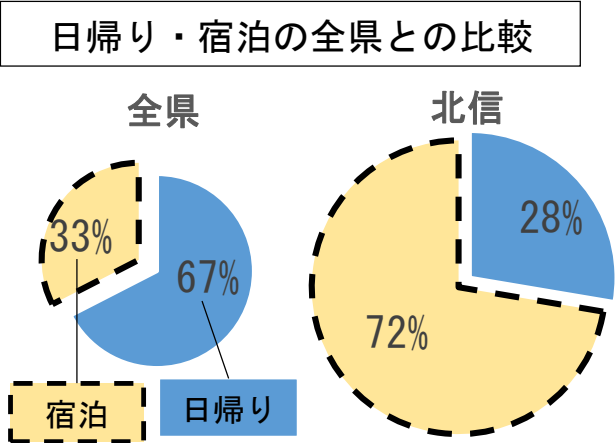
原 因	死亡者数(人)	
		うち北信地域
雪崩	4	3
屋根の雪下ろし	11	8
除雪中の事故	10	6
屋根からの落雪	1	1
その他	0	0
合計	26	18

除雪作業中の事故件数221件
死亡者数21人

達成目標の進捗状況

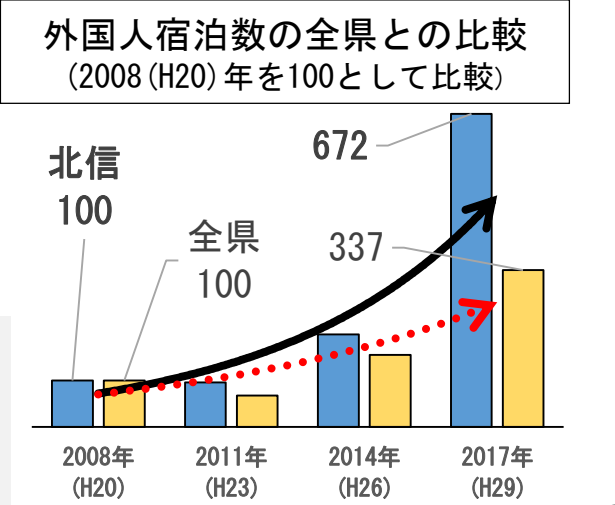
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査(観光部調)	年	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2018)
	実績値	691 万人	719 万人	687万人
春季から秋季の観光地利用者数	実績値	383 万人	400 万人	376万人
冬季の観光地利用者数	実績値	308 万人	319 万人	311万人
観光消費額 観光地利用者統計調査(観光部調)	年	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2018)
	実績値	361 億円	376 億円	363億円

- 観光地延利用者数は687万人(基準年比99.4%)と基準値を下回った。グリーンシーズンは376万人(同98.2%)、ウインターシーズンは311万人(同100.9%)。
- 年間のうちウインターシーズンが45%(全県24%)、グリーンシーズンが55%(同76%)。
- 「日帰り」(190万人)が少なく、「宿泊」(497万人)が多い。
- 外国人宿泊者数は全県を上回るペースで増加。
- 新幹線飯山駅の利用者数は開業以来、毎年増加 (H30乗車人員：567人/日(前年550人/日))。
- 観光消費額は363億円と増加。外国人を中心に消費額の多い宿泊者が増加したことが要因と考えられる。



【重点政策の評価】

外国人宿泊客の増加等により観光消費額は微増しており、事業者によるインバウンド促進策の成果が表れている一方、観光地延利用者数が伸び悩むなど通年型観光地域づくりの成果が十分表れていないことから、サイクリング環境整備など、グリーンシーズンの観光コンテンツの充実が必要。



【今後の取組の方向性】

- アウトドアアクティビティを中心としたグリーンシーズンの観光コンテンツの充実、天候に左右されにくい食や歴史文化など地域資源の活用等による通年型の観光地域づくりの推進。
- 観光産業を支える人材、担い手の確保。受入環境の整備、プロモーションの強化によるインバウンドの積極的取り組み。
- 信越自然郷を中心とした広域観光推進体制の強化。

達成目標の進捗状況

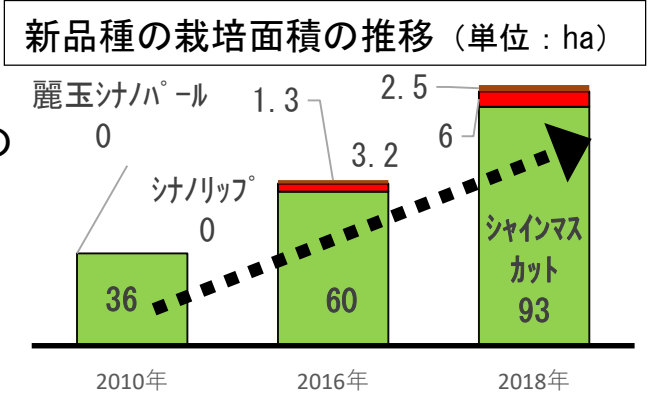
果樹戦略品種等の栽培面積 (農政部調)	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2018)
	実績値	253ha	460ha	292ha
良食味米、業務用米等の栽培面積 (北信地域振興局調)	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2018)
	実績値	535ha	650ha	527ha

- (果樹戦略品種等の栽培面積)
- 栽培面積は292haと基準値比115%に増加。
 - 新品種等の栽培面積が拡大。特にニーズが高く高値傾向のシャインマスカット(ぶどう)が増加面積の8割以上を占める。また、クイーンルージュ(ぶどう)導入がスタート。
 - りんごやぶどうの従来品種の栽培面積は横ばい傾向。
- (良食味米、業務用米等の栽培面積)
- 栽培面積全体は527haと基準値に比べ微減。
 - 良食味米(438ha、基準年比△19ha)は作柄不良で品質が低下し、基準を満たす米が減少。
 - 業務用米(21ha、同+16ha)は外食産業からのニーズが高く、JAも取組を強化しているため増加。
 - 酒米(68ha、同△5ha)は酒蔵との契約栽培で需要が一定。新品種が増加傾向。

- 【重点政策の評価】
- ・ 果樹戦略品種等の拡大は、栽培管理技術の研鑽、長期出荷体制づくり、新品種の早期産地化等の取組により成果が表れている。
 - ・ 良食味米・業務用米等の拡大は、基本的栽培技術の徹底や栽培講習会の開催、実証ほ場の設置等の取組を行っているが、天候不順により成果が十分に表れなかった。

- 【今後の取組の方向性】
- ・ 新品種の導入推進等によりバラエティに富んだ品種構成と市場評価の高い果樹産地づくり。
 - ・ 良食味米、業務用米、酒米それぞれの需要に応じた品質向上と産地育成。
 - ・ 繁忙期の労働力確保による安定生産。IT・IoTを活用した栽培管理技術の普及による省力化と品質向上。

果樹戦略品種等(北信地域)	
新品種 【増加】	ぶどう：シャインマスカット りんご：シナノリップ すもも：麗玉・シナノパール
従来品種 【横ばい】	ぶどう：ナガノパープル りんご：シナノスイート、秋映、 シナノゴールド、 シナノドルチェ



米・食味分析鑑定コンクール
入賞件数 (H26～H30合計)

